
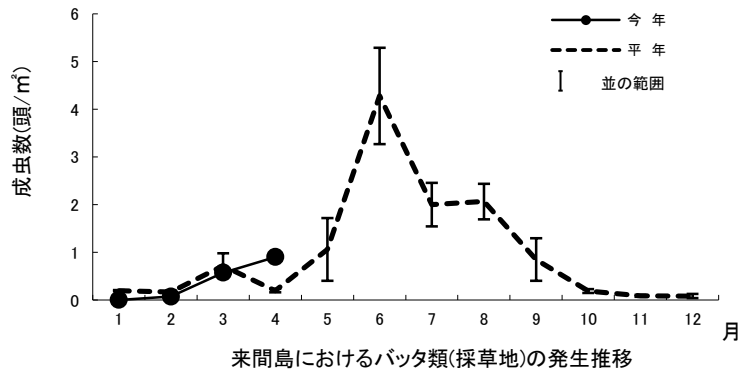


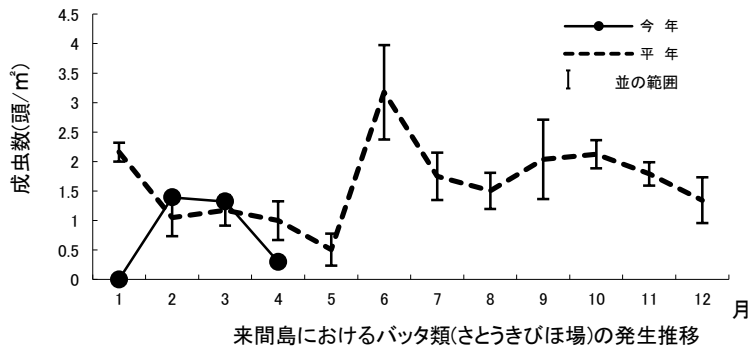
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	バッタ類		
4月の発生量（現況）	判定不可		
5月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	来間島の採草地の成虫数の平年の発生推移から、4月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

採草地




さとうきびほ場



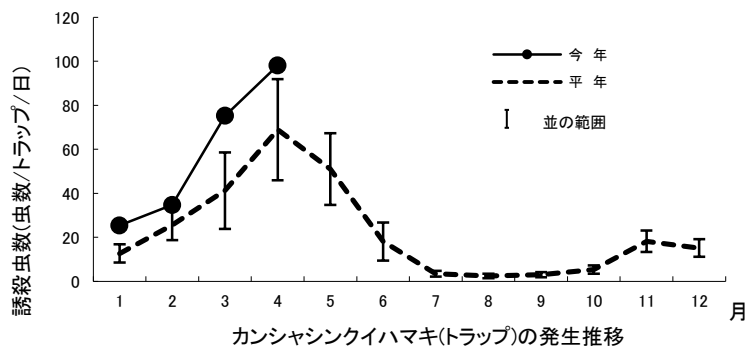
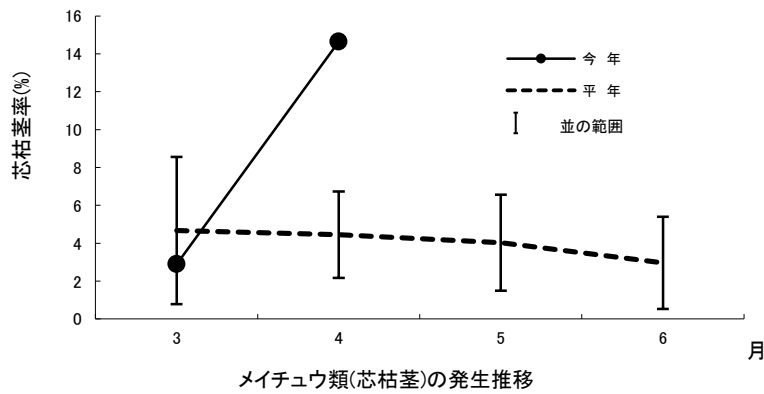
- 防除員の報告によると、宮古本島で台湾ンツチイナゴ、ヒゲマダライナゴが確認された。宮古本島は両種とも少発生。来間島は台湾ンツチイナゴが多発生。

防除のポイント

- 発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。
- 幼虫期の防除が効果的なので、4～6月にほ場周辺の見回りをを行い幼虫の早期発見、早期防除に努める。

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ)		
4月の発生量 (現況)	多		
5月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	芯枯茎率の平年の発生推移から、4月と同程度の発生量と考えられる。		


発生量の根拠 (調査結果)



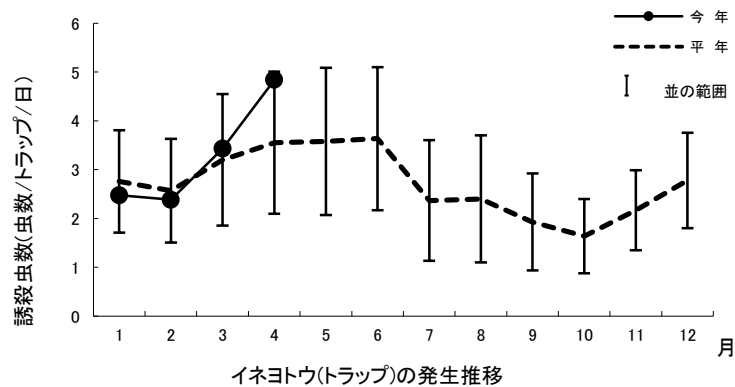
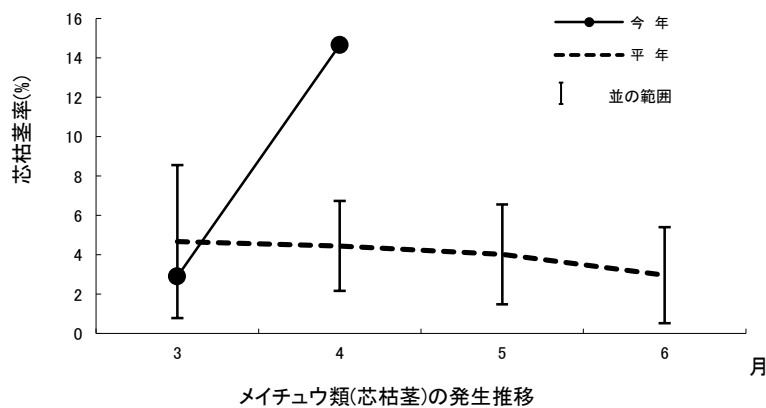
- ・ 宮古島及び伊良部島内における芯枯茎調査の結果、86%が本種であった。

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	② メイチュウ類 (イネヨトウ)		
4月の発生量(現況)	多		
5月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	芯枯茎率の平年の発生推移から、4月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠 (調査結果)



- ・ 宮古島及び伊良部島内における芯枯茎調査の結果、13%が本種であった。

防除のポイント

- ・ 卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時、培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。